

第4回 高浜町総合計画町民ワーキング委員会

日程 令和2年1月16日(木)

午後1時30分より

会場 高浜町役場会議室3、4

1. 開会

2. 議事

(1) 総合計画の全体構成について

(2) 総合計画基本構想町民ワーキング(骨子案)について

(3) 基本構想「将来像(まちやひとの姿)」について(意見交換)

(4) 基本構想「協働と行政経営」について(意見交換)

3. その他

4. 閉会

資料1 総合計画の全体構成

資料2 総合計画基本構想町民ワーキング(骨子案)

資料3 基本構想「将来像(まちやひとの姿)」について

資料4 基本構想「協働と行政経営」について

総合計画町民ワーキング委員会委員

任期：委嘱日 令和元年10月17日～総合計画基本構想案策定終了

	氏名	所属	備考
1	中嶋 正光	高浜町商工会 青年部長	A
2	須藤 竜乃介	若狭高浜観光協会 事務局	B
3	瀨側 智洋	若狭高浜漁業協同組合 和田支所	A
4	今井 光	J Aわかさ 高浜支店 共済課長	B
5	前田 和敬	高浜地区区長会 前会長	欠席
6	大塚 武志	和田地区委員会 前委員長	A
7	中地 啓文	青郷地区区長会 会長 [R2.1.16～]	B
8	田中 康正	内浦地区区長会 前副会長	欠席
9	月田 ショーン	高浜まちづくりネットワーク 地域おこし協力隊	A
10	田淵 誉	高浜町社会福祉協議会 事務局次長	欠席
11	的場 輝夫	高浜町老人クラブ連合会 副会長	B
12	萩野 豊子	高浜町婦人会 副会長	A
13	浅野 幸典	社会教育委員兼公民館運営審議会 会長	B
14	山本 太史	高浜町PTA連合会 副会長	A
15	山中 義和	一般公募	B
16	中嶋 望晶	一般公募	A
17	永禮 義己	高浜町役場 総合政策課 課長	事務局
18	杉本 泰寛	高浜町役場 総合政策課 課長補佐	事務局
19	野村 芳	高浜町役場 総合政策課 技師	事務局

総合計画の全体構成

I 序論

1. 計画策定の趣旨

- これまでの高浜町のまちづくり
- 現計画の期間満了
- 社会情勢の変化

2. 高浜町の特長

- (1) 位置と地勢
- (2) 自然・歴史・文化
- (3) 人口

- 人口の推移と推計
- 年齢3区分別人口割合の推移
- (4) 財政
- 歳入と歳出の推移

3. 社会情勢

- 持続可能な社会づくりを『誰一人取り残さず』に進める時代へ
- 『少子・高齢化』と『人口減少』が、『一段と加速』する時代へ
- 一人ひとりが尊重され、誰もがもっと『自分らしく活躍できる』時代へ
- 様々な『技術革新』が、人々の生活に『劇的な変革』をもたらす時代へ
- 大規模自然災害に備え、『防災・被災時対応力』を培う時代へ
- 持続可能な自治体経営と新しい住民自治を構築する時代へ

4. 前高浜町総合計画の成果と課題

「基本目標」ごとに「成果と課題」を整理し、記載

- 基本目標 1** 誰もが安心して暮らせるまち
- 基本目標 2** いきいきと働くことができるまち
- 基本目標 3** 安全・快適で住みやすいまち
- 基本目標 4** 豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち
- 基本目標 5** 学びあい・教えあい、そして、人を育むまち

町民ワーキングとしての基本構想案を作成

(第1~3回：構想案の構成要素ごとに検討、4~5回：案として検討)

II 基本構想

1. 位置づけと計画期間

- 計画の位置づけ（役割、目的）
- 基本構想、基本計画、実施計画の構成、計画期間の明示

2. 将来像

- (1) まちやひとの姿
- (2) 人口

3. 協働と行政経営

- (1) 住民主体のまちづくり
- (2) 協働のまちづくり
- (3) 持続可能な行政経営

III 基本計画

1. リーディングプロジェクト

- 今後5~10年間、まちづくりを「牽引する」「重視する」プロジェクト

2. 施策の体系

- 「1. リーディングプロジェクト」「3. 分野別の施策」を一覧として記載

3. 分野別の施策

- 分野ごとに「めざす姿」「概況・課題」「施策名」「施策概要」「指標と目標値」などを記載

参考：分野（例）

- ①人権・平和
- ②保健・医療
- ③子ども・子育て
- ④高齢福祉
- ⑤障害福祉
- ⑥地域福祉
- ⑦防災・安全
- ⑧住民自治・地域活動
- ⑨農林水産業
- ⑩商工業
- ⑪観光
- ⑫住まい・生活環境
- ⑬市街地
- ⑭道路・交通
- ⑮自然環境
- ⑯循環型社会・低炭素社会
- ⑰学校教育・青少年
- ⑱生涯学習・文化・スポーツ
- ⑲都市経営

- ・ 分野は今後の検討を踏まえ、調整します
- ・ 行政全体を見渡すことを重視し、すべての分野について、今後の方向、目標を示します。
- ・ 一方で、重視することがわかるよう、「1. リーディングプロジェクト」で特出しして整理します

※町民ワーキングからの意見
(第1~3回)

- ・ 分野ごとに記載する「めざす姿」へ反映
- ・ 取組のアイデアについては、庁内での検討を踏まえ、「施策概要」「実施計画」への反映を検討

4. 計画の推進

- 計画の進行管理
- 指標一覧（「3. 分野別の施策」で各ページに掲載した指標の一覧）

■資料編

- 諮問、答申／○ 策定経過／○ 策定体制
- 委員会名簿（審議会、町民ワーキング、検討委員会、策定委員会、） など

高浜町総合計画 基本構想 町民ワーキング（骨子案）

◆目次

1. 位置づけと計画期間
2. 将来像
3. 協働と行政経営

【資料編】

1. 町民ワーキングの開催スケジュールと検討内容
2. 町民ワーキング委員名簿
3. 町民ワーキング委員会の主な意見 「わたしたちの取り組み」

1. 位置づけと計画期間

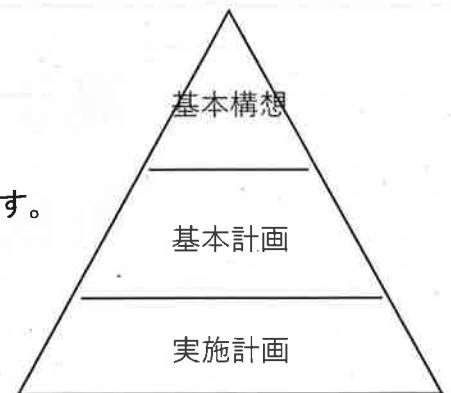
【位置づけ】

- ・ 総合計画はまちづくりの「最上位計画」
- ・ 住民・事業者・町が「将来像」を共有し、まちづくりに取り組む計画
- ・ まちづくりに関わる住民・事業者・町などの各主体の行動指針
- ・ 行財政運営の指針

【計画の構成と計画期間】

■ 基本構想（10年）

- ・ 基本構想は、まちの将来像とそのめざすべき方向を示します。
- ・ 計画期間は、令和3（2021）～12（2030）年度の10年間



■ 基本計画（10年）

- ・ 基本計画は、基本構想にかかげる将来像の実現を図る施策を示します。
- ・ 計画期間は、令和3（2021）～12（2030）年度の10年間
ただし、計画の着実な進行を図るため、5年が経過した令和7（2025）年度に、後期5年間（令和8（2026）～12（2030）年度の必要な見直しを行うこととします。

■ 実施計画（5年）

- ・ 実施計画は、基本計画で定めた施策の具体的な事業内容と財政的な裏付けを示します。
- ・ 計画期間は、基本計画期間を前期と後期に分けた5年間とします。
- ・ ただし、毎年度3か年間を目途に修正、補完を行うことにより進捗把握と必要に応じ、計画の見直しを行うこととします。

2. 将来像

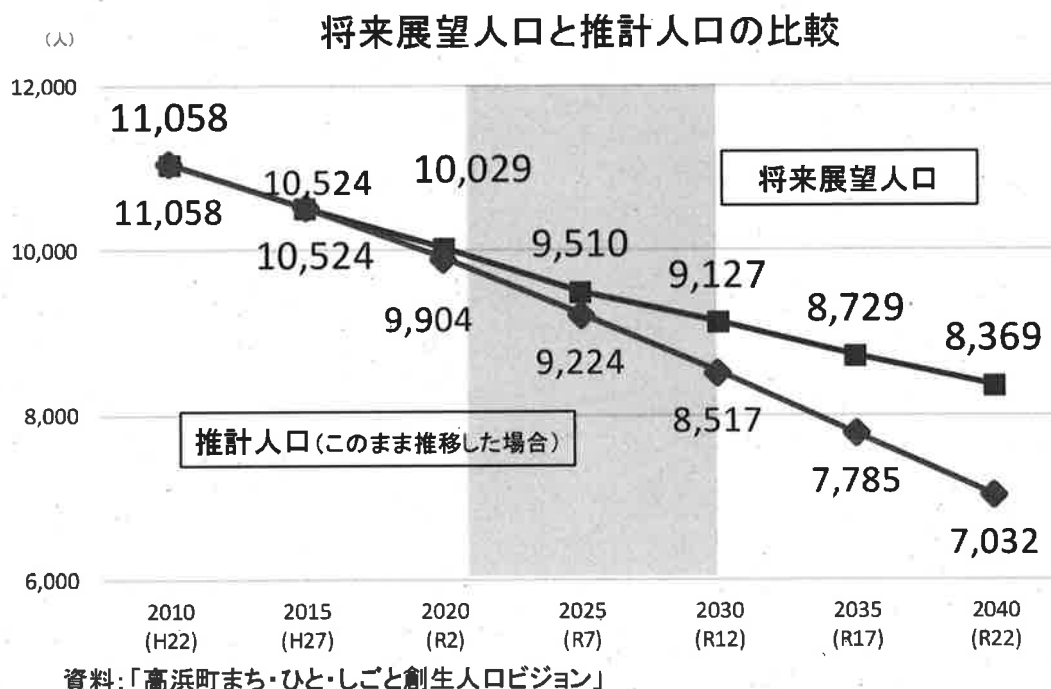
(1) まちやひとの姿

※ 別紙にて検討します

(2) 人口

- ・ 本町では、人口減少が続いており、令和 22 (2040) 年の推計人口は 7,032 人になると予測されています。
- ・ 高浜町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンで掲げた将来展望人口を踏まえ、人口減少、高齢化、さらには生産年齢人口の減少がより一層進むことを見据え、緩やかな人口減少と年齢構成のバランス維持により、持続可能な地域を実現し、本計画の目標年次である令和 12 年度 (2030 年度) において、9,100 人、人口ビジョンの目標年次である令和 22 年度 (2040 年度) において、8,300 人の人口維持を目標とします。

町の将来人口 (令和 12 (2030) 年度) 9,100 人



3. 協働と行政経営

※ 別紙にて検討します

(1) 住民主体のまちづくり

- ・
- ・
- ・

(2) 協働のまちづくり

- ・
- ・
- ・

(3) 持続可能な行政経営

- ・
- ・
- ・

◆資料編

1. 町民ワーキングの開催スケジュールと検討内容
2. 町民ワーキング委員名簿
3. わたしたちが取り組んでいくこと [町民ワーキング委員会の主な意見]
…めざす姿の実現に向けた住民、協働の取り組み

わたしたちが取り組んでいくこと [町民ワーキング委員会の主な意見]

第1回から第4回の町民ワーキングの意見から、めざす姿の実現に向けた住民の取り組み、協働の取り組みを分野別に「わたしたちが取り組んでいくこと」としてとりまとめました。これらのご意見は、基本計画の分野別の「めざす姿」「方針」等の策定に活用します。

保健・医療

- 健康な100歳を目指します。
- 介護を受ける側にならないよう努めます。
- 子どもたちと一緒に、朝のラジオ体操をします。
- 散歩コースを作ります。

産業振興

- 新しいことを始めたい、チャレンジしたい人が、何をしたいか報告する場を作り、起業者を支援します。
- 町や商工会のホームページで求人やボランティア、地域活動等の募集情報を公開します。
- 空き家を活用して、商店街の活性化に貢献します。
- 町内の高校生が町内でアルバイトすることで、町内で働くことへつなげていきます。
- 憧れの的になるような第一次産業者を目指します。

環境保全

- 一人ひとりの環境意識を高めます。
- 家庭・学校で子どもの環境学習を進めます。
- ごみのポイ捨てを絶対に許しません。
- ごみの分別でゴミを減らします。
- 生ごみの水切りや堆肥化で生ごみを減らします。
- レジ袋ゼロを目指します。
- 子どもと一緒に、青葉山に年1回以上登ります。
- 節電を心掛けるとともに、自然エネルギーの活用に取り組みます。
- 各家庭で薬草の苗を育てます。

福祉

- 高齢者が高齢者を支えるネットワークを作ります。
- 若い時から介護について学ぶようにします。
- 声を掛け合い、「おたがいさま」の精神で助け合う関係を築きます。
- あいさつから始めて、顔見知りを増やします。
- 各地域で世代間交流の場を作ります。
- 移動式まちかどカフェや地域サロンのような交流の場、みんなで話し合う場を作ります。

観光振興

- 地域の人が地域の観光地や資源を知って、観光案内人になります。
- 観光情報を発信する「高浜アプリ」を作ります。
- 自然体験ができるプログラムを宿泊者に提供します。
- 旅館、民宿での地元食材利用を進めます。
- 稲刈り、田植え、漁業、炭焼き、たけのこ、干物作り等の専門家が、町民や子どもたちに体験を提供します。
- インパクトのあるおみやげを決定する、高浜M(みやげ)-1グランプリの開催を目指します。

教育・子育て

- 教育を応援するとともに、教育に関わります。
- 地域全体で子どもを育てます。
- 子育てで困った人がいれば、すぐに手助けします。
- 大人が運動を兼ねて公園を利用することで、子どもたちを見守ります。
- 小中高校生と一緒に活動、組織を作ります。
- 地区の祭りを通じて、子どもと大人が関わるようにします。
- 高校や大学の進学で町外に出ても、帰りたいと思えるまちにします。

防犯・防災

- 子どもも大人も気軽に声を掛け合い、隣近所で見守る関係を築きます。
- 災害時の避難場所を把握します。
- 多くの人に参加できるよう、イベントと一緒に防災訓練を開催します。
- 地区、地域ごとに防災訓練や講習を行います。
- 雨水タンクを設置します。
- 家庭用蓄電池を取り入れます。

住環境整備

- 移住者を受け入れる環境を作ります。
- 空き家を活用します。
- 地域住民による自主運営交通バスを作ります。

住民自治

- 全員参加の高浜を目指します。
- 地域の一員であるという意識を持ち、一人ひとりができることを考え、実行します。
- 地域行事を伝承・継承します。
- 4地区でのお互いの交流を活性化します。
- 地域活動やボランティアへ若い世代の参加を促します。
- 子どもや女性、若い世代が参加したい、関心のある活動を考えます。

基本構想「将来像 まちやひとの姿」について

1. 記述項目について

- ・ 町民ワーキング、検討委員会での意見交換と事務局との協議等を踏まえて、次の構成での素案を調整することとします。

記述イメージ
<h2>2. 将来像</h2> <h3>(1) まちやひとの姿</h3> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">キャッチフレーズ</div> <p>(趣旨)</p> <ul style="list-style-type: none">・ ○○○○○○……・ ○○○○○○……・ ○○○○○○…… ・ ○○○○○○……・ ○○○○○○……・ ○○○○○○…… ・ ○○○○○○……・ ○○○○○○……・ ○○○○○○…… <ul style="list-style-type: none">・ キャッチフレーズで表現しようとする「めざす姿」について説明・ 基本計画で整理する「分野のまとめり」を考慮して、3～4ブロックで記述

2. 記述内容について

(1) 将来像に係る基本的なイメージ

- ・ 町民ワーキング、検討委員会では、「住みよい」「暮らしよい」といったことが、高浜町の魅力として語られました。
- ・ これらは、人間関係のあたたかさや安心感、豊かな自然環境が礎となっていること、さらに、今後もこの住みよさ、暮らしよさを継いでいくために、子ども・子育てを中心とした「人」、そして人や地域との「つながり」を大切にしていきたいという思いがしめされたところです。

【町民 W/検討委員の意見】

(美しい自然が保たれ、豊かな暮らしがある)

- ・ 海、山などの豊かな自然は自慢である
- ・ 豊かな自然を次世代にも残していきたい
- ・ 自然に包まれている、守られている
- ・ 自然と共存している
- ・ 豊かな自然があることは前提

(人間関係がよく、あたたかさ、安心感、居心地の良さがある)

- ・ 人とのつながりが豊か、多世代交流
- ・ 地域への愛着やつながりがあることで、まちに戻ってくる
- ・ 子どもが育ち、その子がまたここで子どもを産み育てる、子育ての循環
- ・ 人がやさしい、助け合い身近にある
- ・ 居心地のよいつながり

(「住みよい」「暮らしよい」「戻ってきたい」と思う人が多い、 これからもそう思えるまちでありたい)

- ・ 帰るべき、戻るべきまち
- ・ 昔ながらの良さが残るまち（温故知新）
- ・ 住みやすく、これからもこのままであってほしい
- ・ いろいろな出会いがあるまち
- ・ 進学や就職等で離れても、いずれ戻ってきたいまち
- ・ 愛着をもっている

(2) 将来像にのぞむ「まちや人の姿」として大切にしたいこと

- ・ 町民ワーキング、検討委員会等で分野別に検討した「めざす姿」を踏まえ、それらを組み合わせながら、将来像にのぞむ「まちや人の姿」として4つのイメージをとりまとめました。

① 「子ども・子育て」「福祉」「保健・医療」「教育」分野

検討の素材	ポイント
<p><u>すべての子どもがその子らしく健やかに育っている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子育て、気軽に相談できる ・ ご近所の顔がつながる ・ 町内で出産でき、安心できる医療体制がある ・ 子育て世代の地域での交流 ・ 父親も子育てに今よりも参加している ・ 子どもが安心して遊べる・過ごせる 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが、生涯を通じて、「地域の人との関わり」を感じながら、安心して、心地よく、健やかに暮らしている
<p><u>誰もが、いくつになっても住み慣れた地域でともに支えあい暮らしている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひとりぼっちにならない、たとえ1人になっても安心のある町 ・ 年齢を重ねても、住みやすい町 ・ 声かけ合い、助け合い、「おたがいさま」の町 ・ 気軽に話しあいができる町 ・ 地域にまとまりがある町 ・ ボランティアが盛ん ・ 誰もが必要とされる ・ 「くるむ」を子ども子育てだけでなく、乳幼児期から高齢期までを含めて考えて、キャッチフレーズに用いてはどうか 	<p>② 上記イメージの端的な表現（語句例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して健やかに暮らす ・ 支えあいがある ・ ぬくもりがあり、心地よい、人のつながり ・ 互いに育ちあい、共に生きる <p>（単語例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くるむ／つつむ ・ つちかう／はぐくむ ・ つながる／まわる／めぐる ・ 居場所
<p><u>一人ひとりの健康づくりへの意識が高まり、健康寿命が延伸している</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康寿命の延伸 ・ 健康 100 歳 ・ いきいき ・ 地域医療、予防医療に力をいれる ・ みんな健康で介護の要らないまち 	
<p><u>子どもが高浜町で育ってよかったと思っている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの時からまちづくりに関わる ・ 地域を自慢できる ・ 進学等で町を離れても、戻ってきたい、戻ってくる 	

【メモ欄】

<使いたい表現>	<加える表現>
<その他>	

② 「住民自治・コミュニティ・地域活動」「協働・行政経営」分野

検討の素材	ポイント
<p>多くの人が地域活動に参画し、活発な交流がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の運営、体制、経済面での自立が必要 ・ 20～40代の若いリーダー、団体がでてくるとよい ・ 担い手がたくさんいる ・ 各地区で様々な取り組みが展開されている ・ 地区ごとの祭りによって、多世代交流がなされている ・ 各地区の取組がまち全体で共有されている 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが高浜町の一員として、自分らしく地域と関わり、持続可能なまちとなっている
<p>協働が進み、持続可能な行政経営が行われている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来世代へ財政負担を先送りしない ・ 少ない職員数での行政運営のリスク ・ 住民ニーズの多様化 ・ 地域活動の担い手の高齢化 ・ 住民同士のコミュニケーションの希薄化 ・ 県・広域圏での人材交流 ・ 事務、施設など広域化の検討 	<p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>② 上記イメージの端的な表現</p> <p>(語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの関わりでよりよい未来へつなげる ・ みんなの力でつなぐ <p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 綾なす／編む／織りなす ・ 関わる／つなぐ／継承する／つらなる ・ むすぶ／結う ・ 絆

【メモ欄】

<使いたい表現>	<加える表現>
<その他>	

③ 「生涯学習・文化・スポーツ」「農林水産業」「商工業・観光」分野

検討の素材	ポイント
<p><u>自ら学び、学んだことを活かしている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつになっても楽しく学べる ・ 住民が主体的に色々な活動をしている ・ みんなが地域を自慢できる ・ 年代に関係なく交流が盛ん ・ 伝統芸能が継承されている ・ 外国人にもやさしいまち 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを通じて、誰もが自分らしく活躍している ・ 地域資源を活かした産業によって、まちに活気がある
<p><u>若い力、新しい連携、発電所が立地する利点を活かして、地域産業が活性化している</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やる気がある人、若者のチャレンジを応援する ・ プロが集まり、異業種との連携、コラボ、マッチングによって、新しい産業が生まれる ・ 原子力に限らず、エネルギーのふるさと ・ 原子力発電に関する研究開発拠点のまち、日本（世界）最先端の電子力技術を持つまちにする 	<p>② 上記イメージの端的な表現 (語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びが生きる ・ 学びを活かせるまち → 地域と共に発展する → 活気ある →
<p><u>農林水産業の付加価値が高まり、地産地消も増えている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高浜と言えば「〇〇」があるといった、高浜ブランドがある ・ 地産地消のまち ・ 一次産業で暮らせるまち 	<p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろどる／華やか ・ にぎわう ・ かがやく／きらめく／ひらめく ・ はばたく／ひらく／躍進する／飛躍する／前進する
<p><u>自然環境、歴史、食など地域資源を活かして、1年を通じて高浜町に多くの人々が訪れている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を生かした観光 ・ 誰もが楽しめる ・ 年間を通じて、全国から人が集まる ・ 住民みんなでおもてなし、ホスピタリティ ・ 観光振興によって、地元若者が戻ってくる ・ ITを使った観光で活性化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活気／活力／魅力

【メモ欄】

<使いたい表現>	<加える表現>
<その他>	

④ 「環境」「住生活・都市基盤」「防災」分野

検討の素材	ポイント
<p>美しい自然が保たれ、豊かな暮らしがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、山などの豊かな自然は自慢である ・ 自然に包まれている、守られている ・ 豊かな自然を次世代にも残していきたい ・ 自然と共存している ・ 豊かな自然があることは前提 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然とともにある暮らしよさと自然災害へのしなやかな強さのある都市
<p>良好な住環境があり、快適な暮らしが保たれている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい、統一感のある景観、町並 ・ 夜でも明るい、安全・安心なまち ・ 空き家がないまち ・ 住民が地元の歴史、文化、資源を知っているまち ・ 文化的なまち ・ 歩行者、自転車中心のまち ・ 公共交通が利用しやすいまち ・ 住民も観光客も移動しやすいまち 	<p>② 上記イメージの端的な表現 (語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然とともにある暮らし ・ 心地よさと安心がある ・ 自然災害へのしなやかな強さ ・ 自然とともに、しなやかに生きる
<p>自らできることに取り組み、地域の総力で災害に備えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣近所で見守る、たえず声掛け ・ 自助共助 ・ 防災のスペシャリスト、各地区に防災士がいる ・ 災害時の備蓄率 100% ・ 新住民、外国人も含めてみんなで危険箇所を共有 ・ 災害に強い地域づくり 	<p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然共生／環境共生 ・ レジリエンス／しなやか ・ 多様性 ・ 潤おう ・ 織りなす／寄り添う ・ 快適

【メモ欄】

<p><使いたい表現></p>	<p><加える表現></p>
<p><その他></p>	

(3) 将来像を表すフレーズについて

【キャッチフレーズのポイント】

- ・ 高浜町のことだとわかる。共感できる。
- ・ 言いやすい、覚えやすい、使いやすい。
- ・ できれば比喩的な表現はさけた方がよい。

(例)「織りなす」:「縦糸、横糸を組み合わせることで織物を作る」の意であり、この言葉を用いる場合に、関連する比喩的表現に考慮する必要がある

(4つのイメージをくみあわせたフレーズ)

例1

みんなで支えあい、つながりあい
自然にくるまれ 暮らし輝くまち 高浜町

例2

人と自然がきらめく住みよいまち
若狭たかはま

例3

あなたのかげがえのないまち
自然と人にくるまれ、暮らしよい高浜町

(キャッチフレーズとしての性格を強調したフレーズ)

例4

くるむ つなぐ かがやく
～自然とともにある暮らし 若狭たかはま～

(現総合計画の将来像を継承したフレーズ)

例5

暮らしたい 働きたい 訪れたい
～みんなに選ばれる高浜町へ～

- ・ 「将来像のフレーズが長く、覚えにくい」「一言で伝えられない」「自然は前提としてあるもの」といった意見をふまえ、まとめています。
- ・ 「一人ひとりが主役になる」については、次節の「協働・行政経営」でその考え方を受け止めています。

(4) 参考資料

【現総合計画等に描かれている「将来像」「都市像」等】

計画名	将来像・都市像
現総合計画（第3次） （2011年～）	美しい自然を舞台に 一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町
第1次総計 （1990年～）	「まちの人達が創造的な活動を活発に展開しているまちであるとともに、 広く近畿の人々が交流する近畿のふるさとであるまち」
第2次総計 （2001年～）	「生きがいのある住みよいまち、魅力と活力のあるまち、心豊かで健康なま ち 海浜活生（いきいき）タウン たかはま」
都市マスタープラン	「海辺の暮らしから“継（つなぐ）” ～ひと・暮らし・自然・産業が結び付 き 文化をつなぐ持続可能な風景都市～」
まち・ひと・しごと・ 創生総合戦略	「高浜に住もう 仲間のいる高浜に戻ろう！海のまち高浜で暮らそう！」

【県・近隣市町の将来像】

○福井県：基本理念 「希望ふくい」の創造（「福井県民の将来ビジョン」（H22年策定）

将来像（1）「緑を活かす」福井流生活の確立と継承

将来像（2）「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

○嶺南地域の自治体の将来像（基本理念等）

自治体	将来像（基本理念等）	概要（一部抜粋、要約）
敦賀市 (H23)	世界をつなぐ港まち みんなで拓く 交流拠点都市 敦賀	<ul style="list-style-type: none"> 交通の要衝といった立地特性を生かし、国内外の各地域をつなぐ交流拠点となることを目指す 自立的な「発展のサイクル」の形成を促し、以下のような敦賀を築きます <ol style="list-style-type: none"> ぬくもりと豊かさに満ちた住みよいまち 安心して働き、暮らすことができる活力にあふれるまち 新たな価値を生み出す創造的なまち
小浜市 (H23)	『「夢、無限大」 感動おばま』	<ul style="list-style-type: none"> 「夢、無限大」：「協働」のまちづくりによって、すべての人が限りなく大きな夢を描き、実現できるまちを表す 「感動」：地域資源を発見・認識による感動、市民・団体・事業者・行政が自ら「感じ」、自ら「動く」という自主・自立のまち、「チャレンジ精神」を持って施策を推進していく基本姿勢を表す
美浜町 (H28)	「みんなで創り、絆ぎ、 集う、美し美浜」	<ul style="list-style-type: none"> 創：活力ある「ひと」を育て、人材をつくり、地域をつくり、活気あふれるまちづくりを目指します。 絆：「ひと」がつながり、地域がつながることによって絆が深まり、地域の伝統・文化・自然を次の世代へとつなげるまちづくりを目指します。 集：様々な交流・体験を通じて、人々が出会い、交流が生まれ、輪を広げ、「ひと」が集えるにぎわいのあるまちづくりを目指します。

自治体	将来像（基本理念等）	概要（一部抜粋、要約）
<p>おおい町 (H29)</p>	<p>「輝く笑顔がうみだす希望 情熱よせ合うふるさと “おおい”～みらいへの贈物 魅力 創生をあなたとともに～」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本理念を踏まえ、3つの将来像を設定 (1)～協創・挑戦～ 輝く笑顔が支え合う 素敵なまちづくり (2)～発信・交流～ 磨こう地域の宝 つむいで響く賑いのまちづくり (3)～共感・躍動～ 人と自然がおりなす 夢つなぐまちづくり
<p>若狭町 (H30)</p>	<p>『新しい感動と 笑顔がひろがるまち』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者世代の移住、定住を促進し、地域で活躍することによって生まれてくるまちづくりや、交流の拡大による地域の活性化や新たな出会いは、「新しい感動」として広がっていきます。 ・ 人と人、人と自然などのつながりによって、これまで築いてきた住みやすいまちを、10年後、20年後も、私たちや私たちの子や孫の世代が大好きな「笑顔」が広がるふるさととして続いていくよう守り、育んでいきます。 ・ 大切なふるさとに住み続けていくため、活力あるまちづくりを進め、「新しい感動と笑顔がひろがるまち」を創造していきます。

基本構想「協働と行政経営」について

1. 記述項目について

- 検討委員会での意見交換と事務局との協議等を踏まえて、次の構成での素案を調整することとします。

記述イメージ

3. 協働と行政経営

[前文]

- ・ 3-5 行程度のリード文。

(1) 住民主体のまちづくり

- ・
- ・
- ・

(2) 協働のまちづくり

- ・
- ・
- ・

(3) 持続可能な行政経営

- ・
- ・
- ・

2. 記述内容について

○ 上記の記述内容として含めるべきポイント（案）について、以下に整理します。

(0) 前文

○ 前文には「総合計画に基づくまちづくり」の基調となる考え方を記述します。

検討の素材	記述内容のポイント
(次期計画の策定方針) ・ よりよい“まちづくり”を総合的かつ計画的に推進するための町の最上位計画。 ・ 住民と行政の協働のまちづくりの目標。 ・ 総合的かつ計画的な行政運営の指針。 ・ まちづくりの課題を住民と共有しながら将来にわたって持続可能な活力あるまちづくりを進める必要がある。	○ 総合計画に基づくまちづくりの究極的な目的は『みんな』の高浜町での生活の満足度を高めること。 ○ 従って、これに係るすべて活動は『みんな』で取り組むもの。 ○ なお、『みんな』には、現在の町民はもとより、将来世代、高浜町に関わる人々も含める。
(現総計等) ・ 「一人ひとりが主役になる」「住民一人一人がまちづくりの当事者である」(将来像)	
(社会動向) ・ SDGs を踏まえたまちづくり(誰も取り残さない) ・ 加速化する少子・高齢化、人口減少社会。 ・ 交流人口・関係人口による地域活性化の模索。	

(1) 住民主体のまちづくり

○ ここでは「我がこと」のまちづくりについての記述を想定します。

検討の素材	記述内容のポイント
(町民 W/検討委員での意見) ・ 「高浜町の一員として」との思いが大事。 ・ 自分達のために各自の力を発揮する。 ・ 地域で活躍できる場がある。「我がこと」として関わる。 ・ 子どもの頃から地域に関わる。 ・ 一度離れても戻ってきたいと思える町にしたい。 ・ 「愛着」という表現はよい。	○ まちづくりは「高浜町への愛着」と「高浜町民であることの自負心」(シビックプライド)に根ざすもの。 ○ 交流人口・関係人口も、ともに高浜町のまちづくりに関わる「行動主体」として捉える。
(現総計等) ・ 「一人ひとりが主役になる」「住民一人一人がまちづくりの当事者である」(将来像)	
(社会動向) ・ 「誰もが」尊重される、多様性を前提とする社会へ。 ・ 訪日外国人、外国人市民の増加。 ・ 交流人口・関係人口による地域活性化の模索。	

(2) 協働のまちづくり

- ここでは「それぞれが役割と責任を果たす」「手を取り合う」まちづくりについての記述を想定します。

検討の素材	記述内容のポイント
<p>(町民 W/検討委員での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張る人を応援する。 ・ 協働が進んだ分野とそうでない分野がある。 ・ 住民だけでなく、事業者、企業等との様々な協働の取組もある。 ・ 20～40 代の若いリーダー、団体がでてくるとよい。 ・ まちづくりに参画する人が出てくる環境をつくる。 ・ 組織が運営、体制、経済面での自立が必要。 ・ 自治会の役割など時代にあったものに。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協働は、まちの「問題解決」「魅力向上」「新たな価値の創出」といった、公益公共的な目的における活動である。 ○ まちづくりに係る多様な行動主体が、それぞれに「役割」と「責任」をもって行う。 ○ まちづくりの行動主体とは、住民、自治会や地域活動団体、事業者、行政、交流・関係人口などをいう。 ○ それぞれの行動主体は対等な立場で相互に理解しあい、連携・協力する。
<p>(これまでの協働成果 [現総計総括資料より])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民自身が健康づくりの発信者、担い手となり事業を展開。 ・ 自主防災組織の編成、地区防災訓練の実施。 ・ 各集落での鳥獣被害対策実施隊の編成と対応。 ・ 漁火想から若手花火グループ「櫓龍」が活躍。 ・ 観光協会と若狭町の民間事業者によるパドリングフェスタの開催。 ・ まちなか交流館において、NPO などによるまちなかにぎわい創出のための活動。 ・ 住民による砂浜の清掃。 ・ 婚活イベント、オープンガーデン、和田 de 路地祭等を開催。 	
<p>(現総計等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「協働のまちづくりのルール」 <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族 何ができるかを考え、自分や家族でできることは進んでやっいていこう。 地域や団体の仲間 地域やまちの身近な課題に対して、地域でできることをやっいていこう。 役場 住民や団体等と協働して取り組むための環境整備、サポート役、コーディネータ役。 ・ 住民等と行政との協働による「選ばれる」町の実現 (基本要件 1) 	
<p>(社会動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子・高齢化と人口減少が加速する時代でのコミュニティの維持 (防災面での不安の増大も) ・ 地球温暖化の影響による大規模自然災害の多発で一段上の備えの必要性の高まり、 ・ IoT、AI など新しいテクノロジーが、生活に劇的な変化をもたらしつつある時代。 ・ 社会問題を事業で解決する企業の増加。 ・ 「人生 100 年時代」の到来、定年の延長。 	

(3) 持続可能な行政経営

○ ここでは「持続可能性」を踏まえた行政経営についての記述を想定します。

検討の素材	記述内容のポイント
<p>(町民 W/検討委員での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未利用地等の公共財産の有効活用。 ・ コンパクトで効率的な行財政運営（集約化） ・ 将来世代へ財政負担を先送りしない。 ・ 職員減少による業務過多。 ・ 少ない職員数での行政運営のリスク。 ・ 住民ニーズの多様化。 ・ 地域活動の担い手の高齢化。 ・ 住民同士のコミュニケーションの希薄化。 ・ 県・広域圏での人材交流。 ・ 事務、施設など広域化の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来にわたって、必要な行政機能を確実に維持する必要がある。 ○ コンプライアンスの遵守を前提とした、取り組みの適切な進行管理など、確実な行財政マネジメントを行う。
<p>(現総計等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメントサイクルを徹底した行政経営の実現（基本要件 2） ・ 持続可能な財政基盤の確立（基本要件 3） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域連携やテクノロジーの活用、住民・起業等との協働のプラットフォームの拡充など、行政効果を高め、より効率的に実行できる手段を積極的に活用する。
<p>(社会動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歳入の減少と歳出の増加。 ・ 職員減、歳入減の中での行政機能堅持の必要。 ・ 老朽化したインフラ・公共施設の増加に、維持管理・更新の費用・体制の確保が追いつかない。 ・ 行政の役割は「サービス提供者」から「協働のプラットフォーム支援」へ。 ・ テクノロジーの活用による、効果的・効率的な行政経営への転換。 	